

2011 年度 後期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

授業改善アンケート調査結果

1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、平成 16 年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケート調査を実施している。平成 22 年度後期より実施方式を大幅に改訂し、全科目を対象に授業内でアンケート用紙を配布・回収する方式から、講義科目のみを対象に、学務情報システム KOAN を利用して Web 上で回答する方式に変更した。質問項目も刷新し、また英文を併記して留学生も回答しやすいようにした。実施期間は以下の通りである。

2011 年度後期アンケート回答期間：平成 24 年 1 月 30 日～2 月 6 日

対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳は、以下の通りである。受講登録者数に対する回収率は 29.9%である（なお、受講登録者数は受講者数の実態が反映されたものではない）。

平成 23 年度後期授業改善アンケート対象科目数・回答数

学部			大学院		
	対象 科目数	回答数		対象 科目数	回答数
基礎科目	4	140	共通科目	2	8
共通科目	6	16	先端人間科学科目	2	2
行動系科目	12	226	行動学系科目	10	34
社会系科目	13	230	社会学系科目	7	5
教育系科目	11	237	人間学系科目	7	13
グローバル系科目	8	32	教育学系科目	8	23
			グローバル人間学系科目	8	11
学部計	54	881	大学院計	44	96
計(大学院+学部)				98	977

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされ、個別の授業の改善に役立てられている。さらに、平成 22 年度後期より、アンケート結果がより授業に反映されるよう、担当講師からアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの提出を求めている。

2. 授業改善アンケートの結果

ここでは、平成 23 年度後期の授業改善アンケートの結果を示す。ただし、自由回答項目は除いてある。

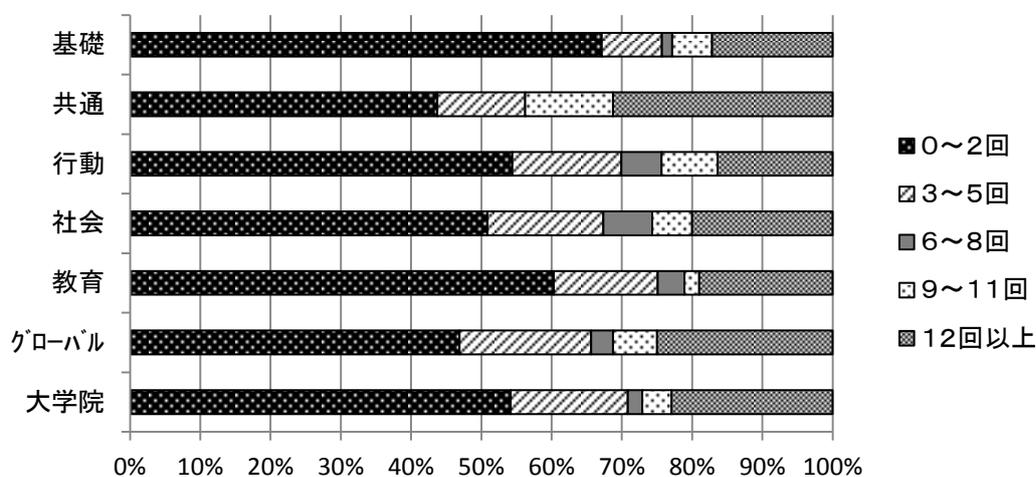
集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。「基礎」は豊中キャンパスで開講される「人間科学概論」等の基礎科目、「共通」は人間科学部での共通科目である。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。なお、各学系によって 1 科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。また、今回のアンケート結果では、対象の授業を 12 回以上欠席しているにもかかわらずアンケートに回答した人が全体の 19.1% もいる。これを受けて、2012 年度前期より、途中で受講を断念した科目については回答しなくてよいとアンケート画面に明記するようにした。また、設問では欠席回数を尋ねているが、出席回数を回答すると勘違いしている学生が存在する可能性もある。そのため、2012 年度後期より設問文の変更を予定している。

平成 23 年度後期では、授業全体に対する評価を 5 段階で尋ねる設問 13「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」の回答の平均値が 3.94 であった（数値が高いほど高評価）。前期の平均値 3.81 より若干上昇している。今回とおおむね同じ科目を対象とした平成 22 年度後期の平均値は 3.95 で、ほぼ同じ数値が出ている。

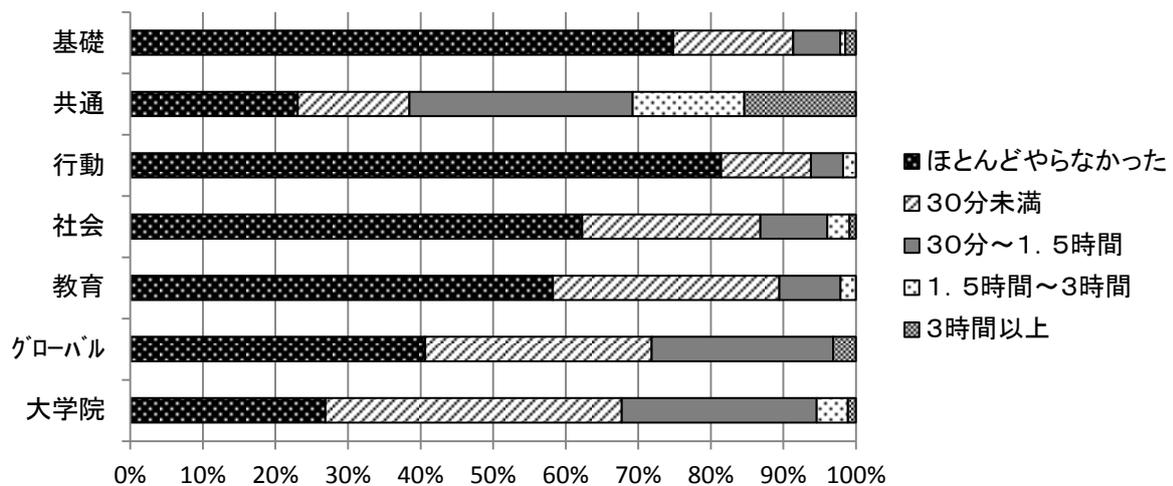
今回のアンケート結果では、設問 5「シラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？」において、「十分役立った」・「まあ役立った」という回答が今年度前期の 50.2% から 57.6% に増加した。平成 22 年度後期の際は「どちらともいえない」という選択肢がなかったため（平成 23 年度前期より追加）単純な比較はできないが、この設問に対して「十分役立った」・「まあ役立った」と回答したのは 51.3% であった。人間科学部では、今年度より「自主的学習を促すシラバス作成指針」に沿ってシラバスを作成するようにしたが、その結果としてシラバスの内容がより学生にとって役立つものに改善されてきているのかもしれない。

各設問の結果の詳細は以下の通りである。

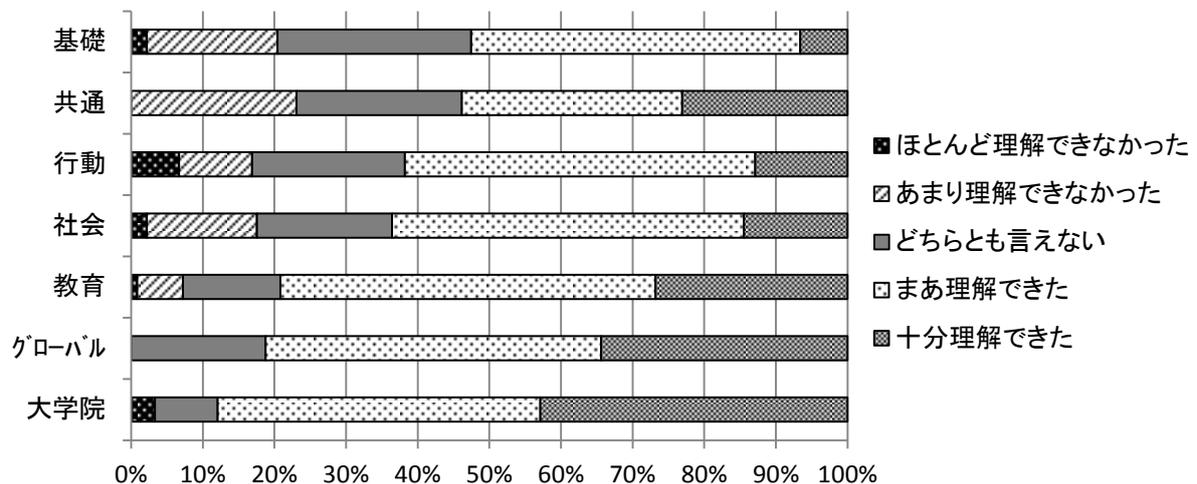
1：この授業を何回欠席しましたか？



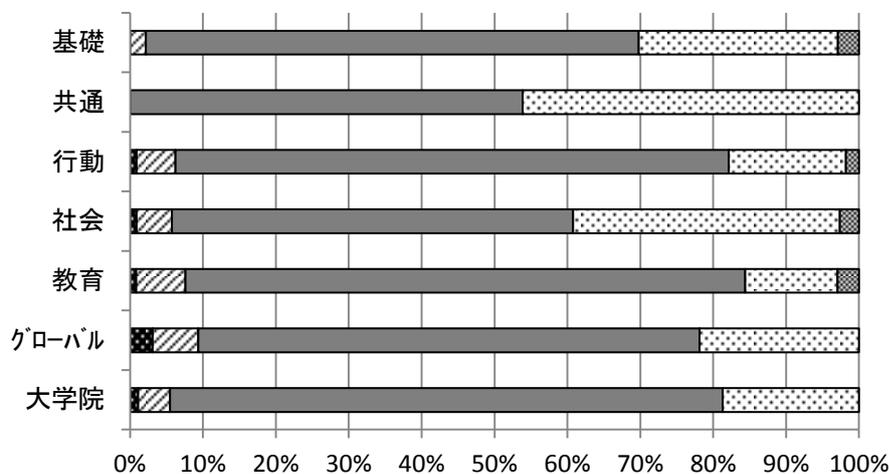
2：この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



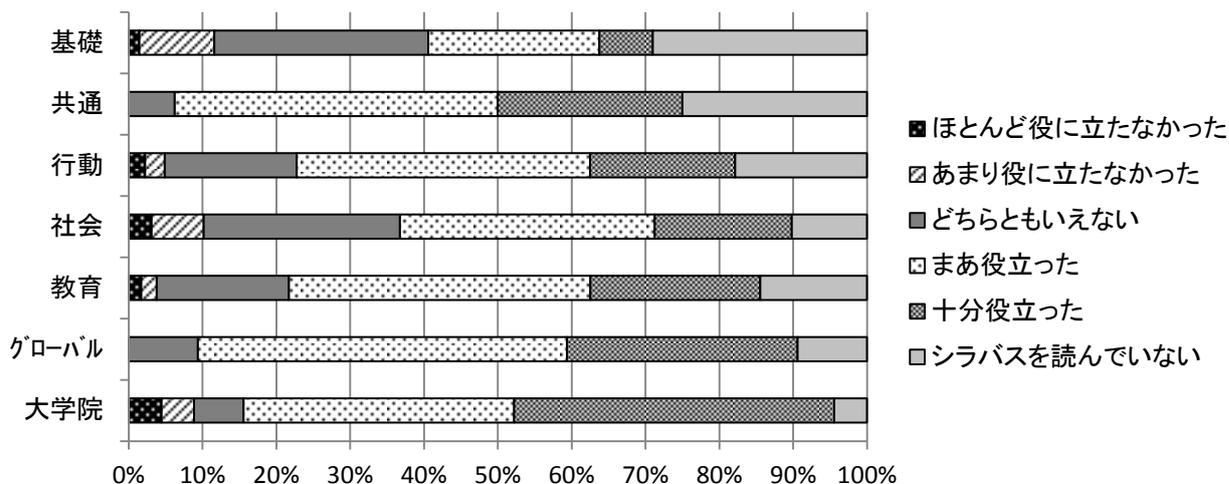
3：授業内容は理解できましたか？



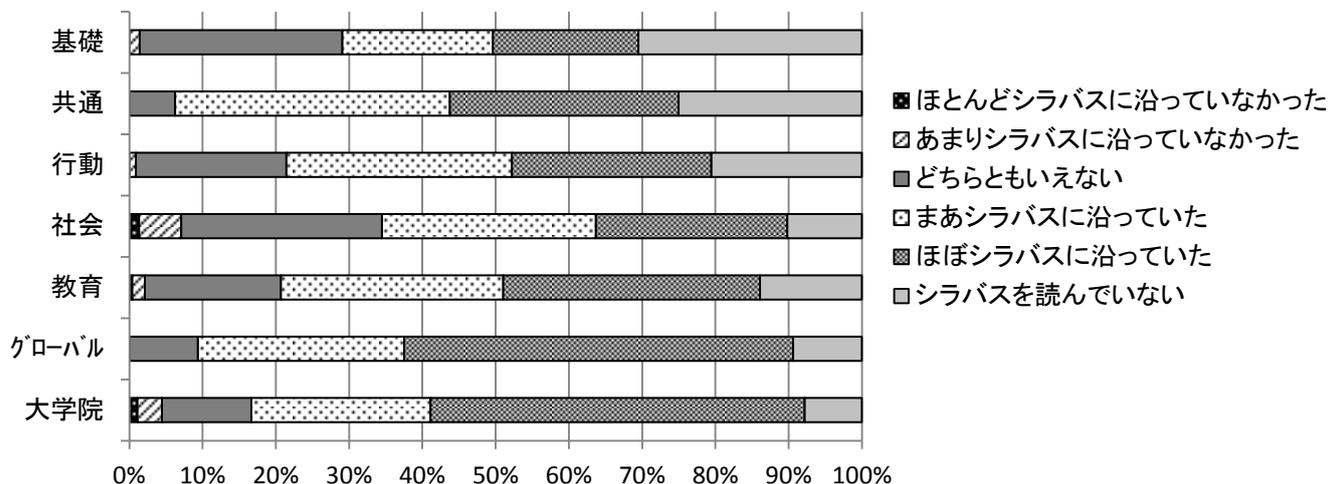
4：授業内容の難易度はどうでしたか？



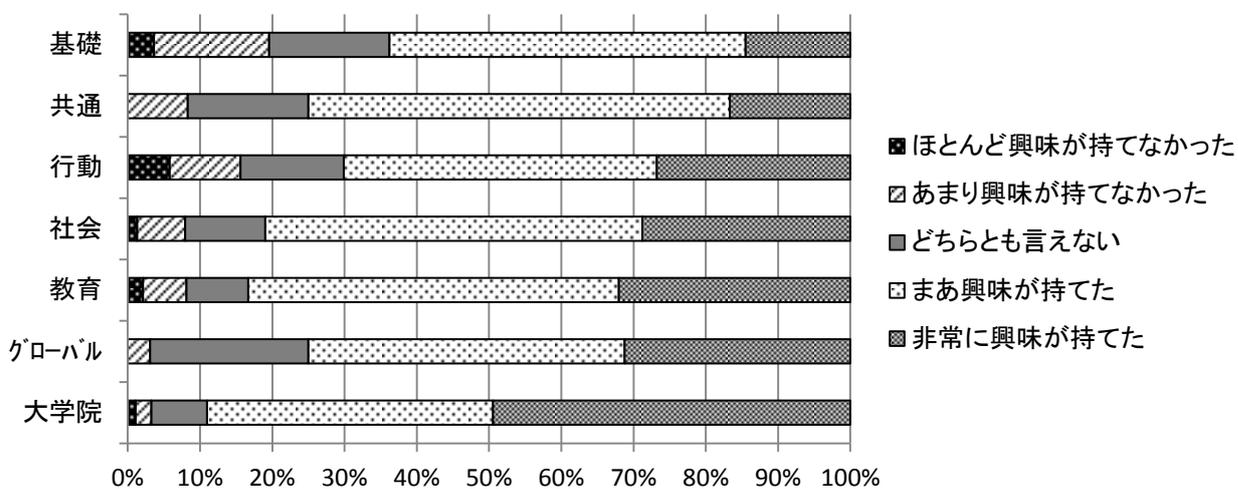
5：シラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



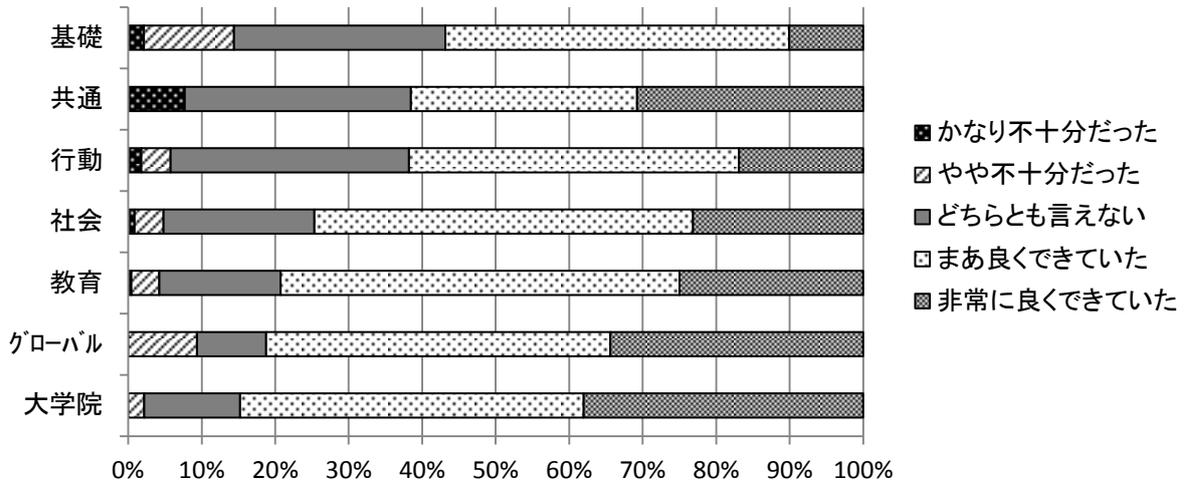
6：授業はシラバスに沿って展開されましたか？



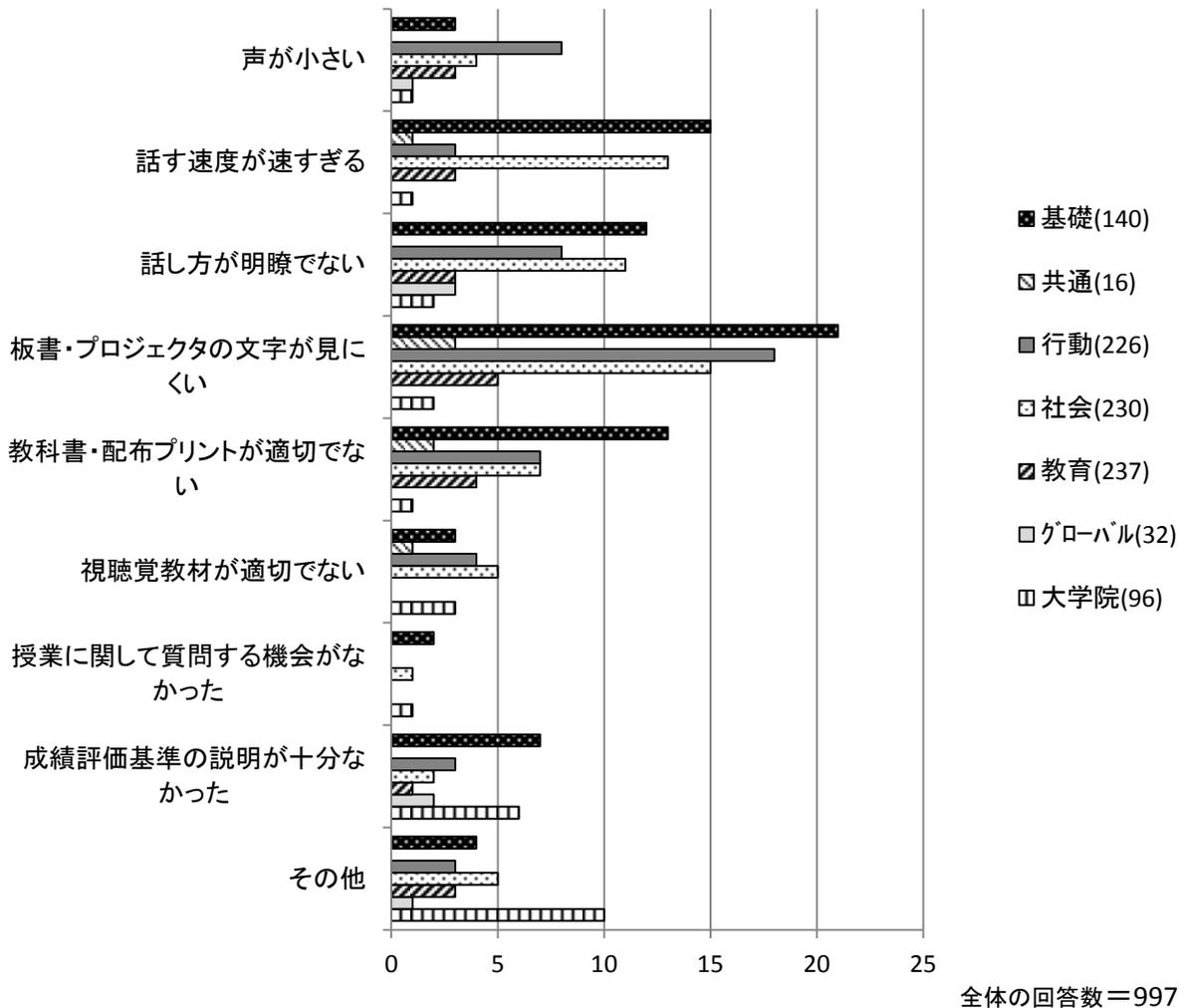
7：授業はあなたにそのトピックに対する関心を引き起こすものでしたか？



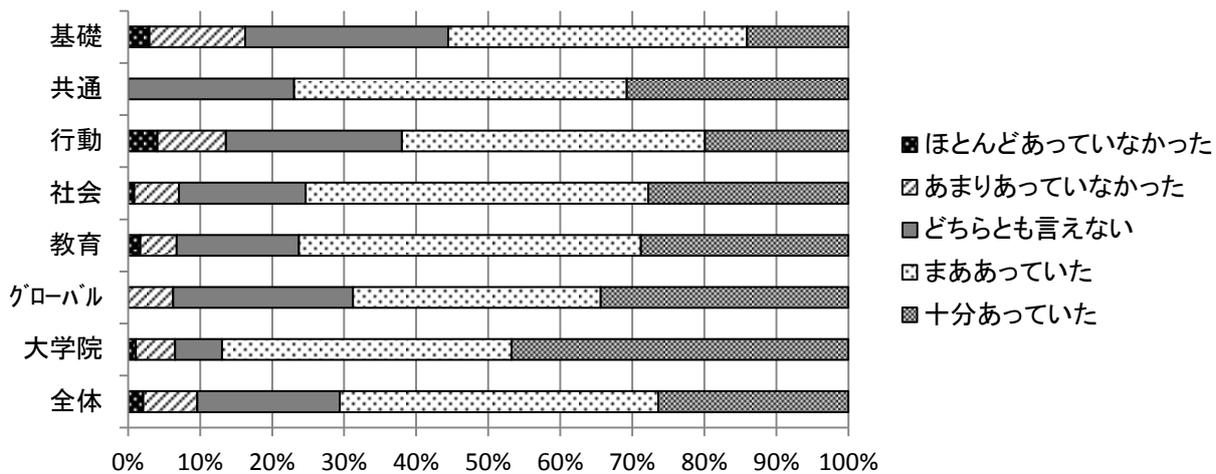
8：授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていませんか？



9：授業の進め方について、以下の点で気になったことがあれば、該当する項目にチェックを入れてください。[複数回答可] ※数値は回答数。()内の数値は各カテゴリーの回答数。

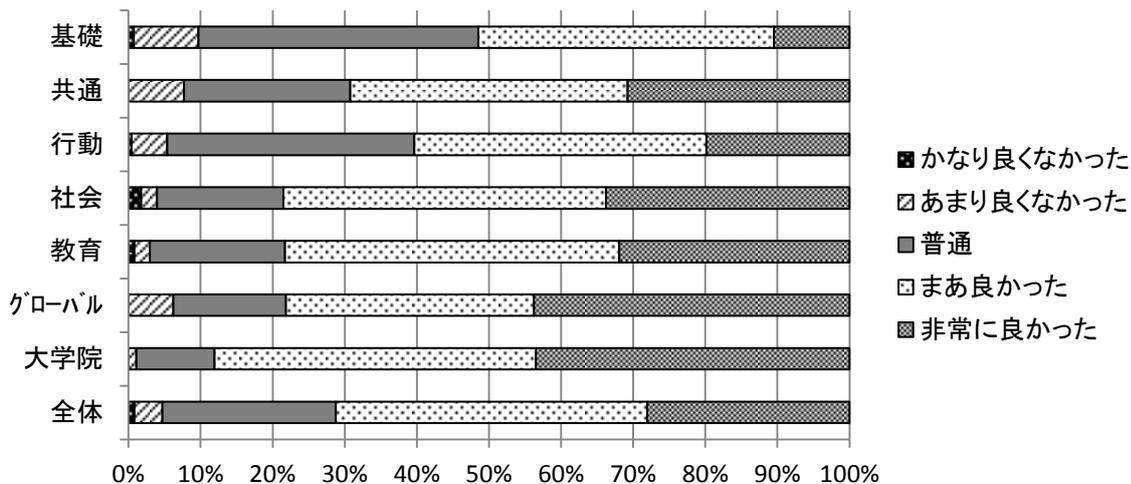


12：この授業はあなたの求めていたものにあっていましたか？



平均値：3.85 標準偏差：0.96

13：この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



平均値：3.94 標準偏差：0.86

3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である（教員名の五十音順に掲載）。

青野 正二
環境心理学・環境心理学特講 I
今年度は、耐震工事期間にあたり、昨年度までより収容人数の少ない教室で授業が行われ、登録者数が座席をやや上回っていた。そのため、教室が狭く授業を受けにくい面があったものと思われる。来年度も工事期間中であり、同じ部屋で授業を実施せざるを得ないため、もし人数が大きくなりオーバーするようであれば、パイプ椅子を持ち込むことで対応していきたい。また、特に学部生にとって、成績評価についての説明が足りなかったようであるが、この点については、シラバスに記述するだけに留まらず、ガイダンス（初回の授業）および授業の終盤（レポートあるいは試験の前頃）に伝えるよう努めていきたい。授業の理解度に関しては、昨年度に比べばらつきが大きかったように思われる。内容的には、少し踏み込んだものを取り入れたこともあったが、これについては、配付資料などで補うことを考えていきたい。

足立 浩平
多変量データ科学・行動データ科学特講 I
次年度は、大きい声で話し、明瞭な板書をするように心がけます。

Anna Dobrovolskaia
人間科学特殊講義 IV
It was a great pleasure to teach this course this semester. The students enrolled in this course were highly motivated and committed to learning. Feedback received from the students during class suggests that the textbook selected for the course was seen as a useful basic reading material. Students taking the course seemed to enjoy participating in in-class discussions. Ensuring that sufficient time is provided for in-class discussion would be important when this course is offered next time.

石金 直美
臨床心理面接特講 II
特講と名が付いているが、実際は実習形式で行なっている授業であり、コメントを記す必要があるのか疑問である。

石川 真由美
社会変動論 ・社会変動論特講
アンケートからは事前によく準備をして、内容を理解してから授業に出席した様子が伝わってきます。一学期間で力は確実についており、さらに難易度の高い学習に取り組んでほしいと思います。

稲場 圭信
現代社会学
ほぼ妥当な回答であると思う。内容に「まあ興味が持てた」と「非常に興味が持てた」をあわせて96%、授業の方法や資料に関して「まあ良くできていた」と「非常に良くできていた」をあわせて8割弱。予習・復習の時間が必要のない授業であることは今後、検討したい。
現代社会学特講
ほぼ妥当な回答であると思う。内容に「まあ興味が持てた」と「非常に興味が持てた」をあわせて8割、授業の方法や資料に関して「まあ良くできていた」と「非常に良くできていた」をあわせて8割。現代社会の話題提供に重きを置いたが、体系立ては検討したい。学部と一緒に講義のため、院生には少し易しかったと思われる。

臼井 伸之介
リスク心理学・応用行動学特講Ⅱ
時間割の関係と思われるが、履修登録者127名、最終時間の試験受験者111名ととにかく出席者が多かった（そのうちアンケート回答者49名、回答率44.1%）。そのため、教室が狭い（ユメヌ教室）、板書の字が見にくいとの指摘があったが、これはいかんともし難かった。「全体の評価」では「普通」と「まあ良かった」がほぼ同数（それぞれ14名と15名）で「普通」が多かったことは反省材料である。来年はもう少しプラスに評価されるように工夫したい。

老松 克博
臨床心理学特講Ⅱ
この授業の内容にもともと関心のあった方も、それほどなかった方も、最後まで熱心に取り組んでいただき、感謝しております。「成績評価の基準が不明瞭」というご意見が多かったようですが、私自身は、この授業の内容は、受講生の皆さんに対する「成績評価」というスケールにはあまりなじまない気がしており、ほんとうは何か別の観点がほしいと思っています。なかなか思いつきませんが、質問タイムはたしかにもっと設けるべきでした。キリのいいところまで、と思っていると、気がついたときにはもう終わりの時刻になっていることが多かったです。申し訳ありません。できることなら、全体での質疑応答、討論に発展するところまで持って行きたいものです。

荳阪 満里子
認知脳心理学
スライドの文字などが見えにくいという指摘があった。来年度は、スライドの文字や図の大きさを工夫したいと思います。
心と脳の科学特講Ⅱ
興味が持てたことよかったです。来年度も、さらに内容を深めていきたいと思っています。

小野田 正利
教育制度学
シラバスに示しているとおりの、模擬裁判形式による授業であったが、当初は予想以上に受講者が多く（形式上は80名）、途中からは60名前後に減っていった。これはレポート発表（模擬裁判の役割）を果たせば、評価の基準をクリアすることを条件としたためでもあった。ただその中でも10人ほどの学生は、積極的に毎回発言を重ねるなど、授業に積極的に取り組んでくれたように感じた。今後は、出席評価もさることながら、途中の段階での中間レポートを課すなどして、学生の取り組みの姿勢を喚起することが必要と思うし、同時に現代的な課題を示すような判決例を選定する必要があると感じた。

金澤 忠博
比較行動心理学
1校時目の授業で朝早く後期で寒い日が多く受講生も大変だったと思う。その分最後まで受講してくれた人はモチベーションが高い人であったと信じたい。ビデオなど視覚教材をできるだけ活用して理解を促したつもりであったが、内容的には詰め込みすぎて消化不良になったのではないかと心配している。講義時間中に実際に体験してもらい課題を入れたり、毎回感想や質問を書いてもらい次の回にフィードバックするというやり方は受講生の反応も確かめられよかったですと思うので今後も継続したい。

河森 正人
動態地域論Ⅱ・動態地域論特講Ⅱ
授業の内容面では、比較的よい評価をいただいたと思う。来年度は事例の数をさらに増やし、比較の幅を広げていきたいと考えている。さらに、すべての学科目の学生が興味を持てるような内容にすべく努力していきたい。なお、技術面（話し方）で指摘があったので改善していきたい。
地域研究特講
基本的によい評価をいただいたと思われる。ただ、各教員の研究方法を十分に理解するには90分間では足りないのでは、教員の本を読む必要があると思ったとの意見があった。次年度の授業では、ぜひこの点を考慮に入れて授業を組み立てたいと思う。

吉川 徹
経験社会学・経験社会学特講
おおむね高い評価をいただいている。

熊倉 博雄
生物人類学
予習・復習がしやすいような授業設計に改善する必要があると感じている。現時点では、副読本の紹介程度にとどまっているが、もう少し気軽に取り組めるような課題を考えたい。また、程度についても、もう少し底上げをして専門性を高めた方がよいようである。

近藤 博之
教育と社会
回答している人は受講生の約半数に過ぎないが、回答内容は中間を挟んで両側に散らばっており、自分でもこんなあたりが妥当な評価かなと思う。内容的に少し難しかったかもしれない。授業中に意見のやりとりができるように、次回はもう少し工夫改善したい。

佐々木 淳
臨床心理学 I
アンケートの結果から、授業の目的はほぼ達成されたと考えられる。自由記述からは、ロールプレイがしやすい教室環境へのニーズや実際のクライアントの情報へのニーズが語られているため、来年度はより体験的な理解の促進や、実践に結びつける知見を多く取り入れることを念頭に授業を展開したい。

佐藤 眞一
臨床死生学・老年行動学
本研究分野 3 名によるオムニバス授業であり、それぞれの専門分野の講義を行った。学生の評価はおおむね良好で、各教員の持ち味がでた講義であったと思う。入門編の授業なので、今後は、学生が主体的に関わる部分や、ディスカッションなども加えた授業に進化させたいと考えている。
臨床死生学・老年行動学特講 II
「臨床死生学・老年行動学」の大学院生によるアンケートの回答である。回答数は 4 名と少なかったが、大学院生は非常に熱心であり、成績も良かった。大学院生も参加する授業なので、今後は予習課題の導入を検討したい。
心理学測定（基礎科目）
オムニバス式の授業で、各教員がそれぞれの専門に関連した測定法の講義と実習を行うが、私の担当では基礎的な知識と技術の習得を目標に授業を行った。座学だけにならないように、グループディスカッションや心理検査などの実習も取り入れた。私語を続ける一部の学生グループ（5, 6 名）があったが、学生の受講態度はおおむね熱心であった。3 コマ連続の授業なので、学生の注意を持続させるための工夫がさらに必要と感じた。

心理・行動科学入門（共通教育科目）
<p>社会心理学を専門とする教員と、臨床死生学・老年行動学を研究分野とする2名の教員による心理学および行動科学の一般教育のための授業なので、後者の私は主にパーソナリティと動機づけについてPPTを用いた講義およびビデオ視聴などを行った。昨年も私の専門の話をして欲しいとの要望があったので、1回分の講義のみそれに当てたが、今年のアンケートでも同じ要望があったが、これ以上の対応は困難である。学生によって回答が異なっており、一貫した傾向は伺いにくい。一般教育科目であるため、授業に対する構えが学生によって異なるのであろう。今後は、学生に対して主体的な授業への参加を促す工夫を行いたい。</p>
澤村 信英
国際協力学Ⅱ・国際協力学特講Ⅱ
<p>発展途上国の教育、開発、国際協力をめぐる現状や課題を事例として取り上げながら授業を行った。学生の授業参加を促すため、今年度より文献講読を5回含めた。発表の方法および討論者をあらかじめ指定したりしたが、担当の学生以外はほとんど文献を事前に読んでいない様子であった。その結果、期待した議論は思うように進まず、学生の自主性に依拠した授業展開を見直す必要性も感じた。また、この文献には、情報量を優先し国際機関の報告書を主に使用したが、今後は学術論文を含めることにより、報告と論文の違いを認識させる機会ともしたい。全体として、授業内容は学生のニーズに合致していることは確認できた。</p>
三宮 真智子
教育コミュニケーション学Ⅱ・教育コミュニケーション学特講Ⅱ
<p>教育コミュニケーション学特講Ⅱについて概ね良好な結果であり、また受講生の受講態度も申し分なく、特に問題はないと判断しました。教育コミュニケーション学Ⅱについては途中で受講を断念した人が回答者に含まれている問題点はあるにせよ、結果を踏まえて判断・意思決定した点は以下の通りです。</p> <p>(1) 授業内容をより高度なものにする。</p> <p>(2) 予習／復習のための課題を今後倍増し、そのチェックを厳しくする。</p> <p>(3) 講義室を変更する。(理由：東館106の映像機器は、他の授業や系会議で用いた時にもうまく作動しないことがしばしばあり、手間取るため。)</p>
篠原 一光
適応認知行動学・適応認知行動学特講Ⅰ
<p>アンケート結果は可もなく不可もなくといったものだったが、次に述べるような改善点があることを認識している。今回の講義では前半部分に時間を取られすぎ、後半に予定していた内容の相当部分を実施することができなかった。毎回授業終了時にコメントを書いてもらって、次回にコメントに対応する内容を講義するという形をとっているため、予定した内容を消化する時間が不足してしまったように思われる。このため、次年度は講義内容を精選するようにしたいと考えている。また実習的内容について、準備したものの実施できなかった部分が残ってしまったので、必ず実施できるよう考慮したい。</p>

志水 宏吉
教育文化学
予想していたよりもよい結果が出て、うれしく思う。今期の授業と重なって展開した、大阪教育条例案をめぐる現実の動きを随時追いかけたのが、今回の授業の最大の特徴であった。「授業に政治の話を持ち込むのか」という批判の声も一部あったが、受講生たちはおおむね熱心に講義を聴講し、そして議論に参加してくれた。手応えの残る半期であった。
学校社会学特講
アンケートに答えてくれたのが1人なので、それに対する論評は控える。この授業は、学部・院共通の科目として開講された。両者のニーズに合わせ応えることは容易ではないが、来年度の授業に共同参加してくれている他のスタッフ・TAとともに、よりよい授業のスタイル・中身を追求していきたい。

志村 剛
行動生理学・行動生理学特講 II
全体に出席率も高く、授業評価も概ね良好なようです。ただし、この授業内容に、はじめから関心が高い受講者の判断ではないかと思っています。パワーポイント主体の授業の進め方には例年通り注文があるようですが、教材の配布方法など次年度以降さらに工夫していきたいと考えています。本来なら、プロジェクターとホワイトボードを両用したいところですが、大半の教室ではその実施が構造上不可能なので、より良い方法を検討していきます。

高田 一宏
教育環境学概論（基礎科目）
様々な学部の学生が受講しているので、学生の関心や専門に応じた内容を提供するのが難しい。今後、コメントカードの活用などを検討したい。また、今年度は試験の日程を急遽変更して受講生に迷惑をかけた。連絡漏れなどが無いよう、十分に気をつけたい。
コミュニティ教育学
今年度初めて担当した。難易度は高くなく内容は理解できたという評価をもらった。しかし、学生が求めていたものと授業内容は必ずしも一致しなかったようだ。初回にアンケートをとるなどして、授業に対する要望や期待を把握しようと思う。

千葉 泉
実践的文化交流 II
本年度は、授業ごとに報告書を出してもらい、受講生一人一人のウクレレの技能修得状況を把握すると同時に、授業に対する要望に応えられるように努めました。それでも、難易度に関する偏差が見られるほか、関心の喚起に関する若干の不十分な評価が出ているので、来年度は、練習曲の選出等に関して受講生の要望を取り入れるなど、さらに努力したいと思います。

辻 大介
コミュニケーション社会学
今年度も概ねよい評価で、うれしく思います。内容が多すぎ、広範すぎるのではという指摘もいただきましたが、これは確かにその通りで、一つ一つのトピックをもう少しゆっくり取り上げたという気持ちは私自身もあります。講義内容の一部を予習（自主学習）にまわすというのが一つの手だろうとは思いますが、映像教材を使っているとなかなかそれも難しいところがあり、思案中です。最終課題のレポートを公開してほしいという要望は前向きに検討します。確かにおもしろい内容のレポートも多々ありますので。すべてのレポートをオープンにするのは無理ですが、提出者の了承が得られたものからいくつか選んで、講評をつけて講義の最終回でフィードバックする、とか、何かやり方を考えてみます。
堤 修三
社会保障政策論Ⅱ・社会保障政策論特講Ⅱ
1学期・2学期を通した講義ですので、本来は両方を聴いていただきたいところでした。講義の眼目は、社会保障の各制度を支えている基本的な考え方を知ることであり、各制度の具体的な細かい内容ではありません。それによって、様々に話題となる制度・政策議論を自分で考え、判断できるようになってもらうことがねらいでしたが、概ねその狙いは達成することができたように思います。
Don Bysouth
人間科学特殊講義Ⅰ
Students enjoyed the use of case studies and simulations of real world conflicts, multimedia presentations and group activities and this will be further developed for future course delivery. Some students indicated that they had some issues with English delivery, and this will be addressed for future course delivery. Overall students gave very positive feedback on the course and felt it was a useful course for those interested in international relations, conflict resolution and global inequality.
中川 敏
人間と文化・人間と文化特講・人類学理論・人類学理論特講
だいたい思っていたとおりだった。
中道 正之
霊長類心理学
毎回 25 名ほどの出席者で、アンケートの回答者数が 11 名、そして、授業を全体として「まあ良かった」、「非常に良かった」の回答者が 11 名のうちの 10 名であった。回答者が半数しかなかったということ、反省材料に、授業改善を考えたい。また、誰ひとり授業の難易度を、難しいと感じていなかったことは、易し過ぎる授業であったともいえるので、次回からは、少し難易度を高めた授業にしてみたい。

比較行動学特講Ⅱ
回答者は3名のみであったが、全員が授業を全体として良かったと判断してくれており、安堵。受講者とアイデアの交換ができるような授業内容にさらに改善していきたい。

中村 安秀
医療通訳とコミュニティ
おおむね満足された結果をいただいたと理解している。木曜日の2限に、106教室を使用した。暖房があまり効かないという苦情が見られた。外からの風が直接吹き付ける構造上の問題もあるが、教室の暖房対策について、次年度の改善を望みたい。
ボランティア論（共通教育科目）
おおむね、満足したという回答が多かった。ただ、全学共通教育科目の他の科目との比較という点では、較べる材料がなく、相対的な評価の位置がわかりにくかった。

中山 康雄
認知システム論・認知システム論特講
講義のプレゼンテーションの工夫に関する要望があった。また、講義内容が難しすぎるという意見も多かった。今後の反省材料としたい。

服部 憲児
高等教育論特講
受講人数に見合わない教室であったにもかかわらず、回答いただいた方からは高い評価をいただいているので、安心しました。受講生の意識も高かった。来年度からはより高度な内容も盛り込もうと思っています。

檜垣 立哉
表象・記号学特講
回答者が1名だけなのでその内容についてはコメントしがたいが、基本的に学部のゼミとしておこなっていたものであり、大学院生にとっては初歩的なものにつつまかもしれない（とはいえ大学院生の出席者は存在していたかどうか定かではない・・・）。
生命と社会システム特講Ⅱ
大学院で演習科目として行っていて、回答者がいないのでコメントしがたいが、基本的に映像と表現に関する演習であり、参加者の意向には答えていたとおもう。が、今期は少し進みが遅かったという反省はある。

平沢 安政
生涯教育学
授業へのコメントをありがとうございました。受講生の65%から「良かった」「非常に良かった」との評価をいただき、少しホッとしました。授業内容が少し盛りだくさんだったので、少し難しいと感じられたかもしれませんが、人権教育の視点からみた生涯教育の概要については、ほぼ扱うことができたと思っています。今後も、人権教育や生涯教育に対する関心を持ち続けていただければと願っています。
生涯教育学特講
回答をいただけたのが一人だったのは残念ですが、どの項目も高く評価いただいてよかったです。大学院生にとっては、少し内容が平易すぎたかもしれませんが、人権教育の視点からみた生涯教育の課題や展望について、基本となることがらを理解していただけたのでしたら、幸いです。今後も、人権教育や生涯教育への関心を持ち続けていただくことを願っています。

Fiona Creaser
人間科学特殊講義Ⅱ・人間科学特殊講義Ⅲ
I was pleased with the results.

福岡 まどか
実践的文化交流Ⅱ
アンケートの中にあつたように、この授業がきっかけとなって、楽器やダンスに関心を持つことができ、友人とも楽しむことができれば、非常に嬉しいです。ご指摘のあつたようなこのタイプの授業に関するアンケートの是非についてはたしかに難しい問題だと思います。ですが今後の授業をより良くしたいという教員側の観点からは、受講者の皆さんからのコメントは大変参考になります。授業中に出して頂いたコメントも参考にしつつ、今後の授業のやり方も引き続き考えていきたいと思っています。
地域知識論Ⅱ・地域知識論特講Ⅱ
アンケートの方には記述式の回答はありませんでしたが、この授業全体を振り返ってコメントを記述します。この授業は、地域に根差した視点から、さまざまな知のあり方を対象として、グローバル化する現代世界の中でそうした知のあり方がどのような変化を遂げているのかという問題を扱いました。第2 Semesterの授業では特に食や環境などを取り上げてこうした問題を考察しました。やや難しいテーマではありますが、今後も具体的な事例を取り上げつつ、受講者の皆さんに関心を持ってもらえるような授業のやり方を心がけていきたいと思っています。映像資料や写真なども多用して、抽象的思考と具体的な事例とが提示できるような授業を目指していきたいと思っています。

藤岡 淳子
教育心理学Ⅰ
参考にします。

藤川 信夫
教育人間学Ⅰ・教育人間学特講Ⅱ
平成22年度のアンケート結果を踏まえ、とくに第1学期の講義では予習を前提とする授業形式に変更したが、ある程度その成果は出たように思う。また、すでにこれまでも行ってきたことだが、講義最後にコメントカードを配布し、次の講義の冒頭で学生からのコメントに答えるという形式は非常に好評であり、講義内容の理解を促しているように思う。しかし、前期後期を通じて、耐震工事関連で適切な教室の確保が困難なこともあり、教室後部の学生にとってはプロジェクターに映された文字が読みづらい、教室の温度が適切でない等の問題が出たように思う。いずれにしても、今年度のアンケート結果を踏まえ、また、環境条件の変化に応じたかたちで、次年度の講義についても改善努力を続けていくつもりである。
前迫 孝憲
教育工学Ⅰ
幅広い内容をオムニバス形式で、協働学習法なども取り入れて実施した。難易度は適切だったようで、授業はほぼ理解できたようであるが、予習・復習にほとんど時間を割いておらず、今後の課題と考えられる。
コミュニケーションメディア特講Ⅱ
幅広い内容をオムニバス形式で、協働学習法なども取り入れて実施した。難易度は適切だったようで、授業は理解できたようであるが、予習・復習にほとんど時間を割いておらず、今後の課題と考えられる。
宮原 暁
超域地域論Ⅱ
アンケートへの回答ありがとうございました。大変興味を持ったという意見と、科目に対してあまり興味がそそられなかったとのご意見に分かれており、受講者の志向によってはなかなか受け入れにくい部分もあったのかと反省しております。おそらく後者のご意見は、理論的な何かを求めているのではないかと思いますので、来年度はその点についても少し詳しく説明を加えたいと思います。
超域地域論特講Ⅱ
アンケートへの回答ありがとうございました。少ない回答数でしたが、概ね授業の主旨を好意的に評価していただけたのではないかと考えております。本科目は学部生向けの超域地域論としても開講しておりますが、両者の間で主旨と期待に対して大きな隔たりが見られました。この点、どちらのニーズにも沿うように今後とも改善の努力を続けていきたいと考えております。
国際フィールドワーク論Ⅰ
アンケートへの回答ありがとうございました。講義の主旨が理解しにくかったとのご意見に即して、この点での改善をすすめたいと思います。

フィールド調査・評価入門
アンケートへの回答ありがとうございました。多くの方が大変興味深かったとのご意見を寄せており、一応、本演習は成功したものと考えております。ただスケジュールの問題についてご指摘があり、この点は改善したいと思っております。また、本科目は学部生向けの国際フィールドワーク論としても開講しておりますが、両者の関心のあり方は大きく異なっており、その調整も課題としたいと思っております。

牟田 和恵
家族社会学
参考になりました。授業の準備学習をどのように動機づけていくかが今後の課題だと感じました。
家族社会学特講
2名のみのお返事ですが、高い評価を得ることができ、よかったです。受講者とのフィードバックに努めたのがよかったのかと感じています。

村上 靖彦
現代思想論・現代思想論特講
耐震工事のために教室が確保できず毎回椅子を他の部屋から持ち込んで授業をすることになり、迷惑をおかけしました。それでも登録者全員が入室することはできない状況でした。(ただし多くの方は非常に出席状況が良かったと思います) 板書など改善点の必要を感じました。

森川 和則
基礎心理学
履修登録者は50名ほどですが、アンケート回答者が21名ですので、必ずしも全体の意見ではないかもしれませんが、質問「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」に対し、「まあ良かった」が7名、「非常に良かった」が11名でした(平均値4.38)ので、総合的に好評だったと思われます。授業内容の難易度に関しても回答者20名中17名が適切と答えているので、変更する必要はなさそうです。予習・復習は「ほとんどやらなかった」と答えた人が21名中15名いましたが、宿題を課すことが良いかわかりません。授業の進め方について、少数ながら「話し方が明瞭でない」が2名いました。教室にマイクがないのも理由の一部だと思いますが、来年度は滑舌を改善したいと思います(歯が1本抜けただけでずいぶん話しにくくなりました)。
基礎心理学特講 II
質問「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」に対し、平均値4.25でしたので、総合的に好評だったと思われます。ただし、不満点として「授業に関して質問する機会がなかった」というコメントがありました。質問はいつでも受け付けていたのですが、もっと質問しやすくするために来年度は毎週授業の終わりに質問の時間を設けたいと思います。